



知ってほしいこと！ お知らせしたいこと！

(仮称)大更駅前顔づくり施設を紹介



※画像は設計段階のイメージで、実際とは異なる場合があります。

2026年春のオープン予定

◆ 3 階 図書館・学習エリア

年間利用見込み者数は2万人。現在の図書館から移転して、新設される図書館です。未就学児専用の読み聞かせコーナーや小学校の低学年・高学年コーナー、地域資料スペースを充実させる予定で、学習できる席数も大きく拡大する見込みです。また、現在の蔵書数約5万5千冊を将来的には9万冊まで増やす予定です。月ごとのテーマ展、夏の映画会やクリスマスお話し会などのイベントも一層充実させて、乳幼児から高齢の方まで、全ての市民の皆さんが、わくわく感を持って、本に親しめる図書館として「学ぶ」のフロアになる予定です。



◆ 2 階 子育て支援・遊具エリア

年間利用見込み者数は1万2千人。「子どもが楽しく遊べる場所」として、チューブスライダや大きなネット遊具を設置予定です。未就学児コーナーには、遊具の一部に県産材を活用したおもちゃを導入し、畳スペースの絵本コーナーとあわせて、さまざまな年齢にに応じて安心して遊べる環境を整える予定です。また、子育て世代に向けた情報発信や子育てに関する相談、成長に応じた各種教室が開催できるイベントコーナーと乳児コーナーも設ける予定となっており、子育て世代の皆さんをしつかりとサポートし、子どもたちの楽しく「遊ぶ」を実現するフロアになる予定です。



◆ 1 階 情報発信・エントランスエリア

年間利用見込み者数は1万9千人。子どもから高齢の方まで、誰もが集まれる憩いの場とさまざまな情報を共有できるエリアとなる予定です。新聞や雑誌を自由に閲覧することができ、待合スペースもあり、ゆつくりと過ごせる環境を整えています。市外の方に八幡平市を知っていただける移住定住センターも展開する予定です。また、さまざまな小規模イベントに対応できるステージ付きイベントコーナーは、市民の新しい交流の場として活用が期待されます。カフェや期間限定のチャレンジショップコーナーも予定しており、にぎわいを創出する「憩い」のフロアになる予定です。



建築工事について

株式会社 遠忠
現場代理人 谷地 涼平 氏

大更駅前に八幡平市のシンボリックな建物が建つことへの期待と同時に大変難しい工事内容、デザイン、規模を考えると不安感もあります。敷地全体に建物が配置され、工事をするには制限の多い場所となっております。近隣の方々、歩行者、通行車両に十分注意し、安全第一で工事を進めるように努力してまいります。ご協力をよろしくお願いいたします。

デザインコンセプトについて

株式会社アール・アイ・エー
東京本社設計本部 設計二部 室長 荒平 剛史 氏

厳しい冬でも遊べる屋根付きの円形公園「シリンダーパーク」を中心に子育て支援施設・図書館・カフェなどを巡りながら、多様な居場所に出会える建築を設計しました。市民の皆さまがお気に入りの場所を見つけ、活動や情報にふれあえる刺激のある場所として多くの人でにぎわってほしいと願っています。

目指す施設の姿

現在、大更駅前に建設している(仮称)大更駅前顔づくり施設は、移住定住センターやカフェ、イベントスペース、多様な目的で利用できるチャレンジショップ、子育て支援施設、屋根付き公園、図書館などの機能を有する交流複合施設です。市では、利用者が使いやすい施設になるよう検討するとともに、各機能間の連携により相乗効果を生み出し、にぎわいを生み出す交流の拠点となるように取り組んでいます。

佐々木孝弘市長

(仮称)大更駅前顔づくり施設は、にぎわい創出のはずみとなり、市民が集う新しい居場所として、地域を盛り上げるきっかけとなるように整備を進めております。施設のさまざまな機能をご利用いただき、市民の皆さまと連携することで、市民の交流がより一層図られ、大更駅前での人の集まり人の動き、流れを生み出すことで、にぎわいが生まれるものと考えております。

施設の概要説明

敷地面積は1678平方メートルで、建物の構造はRC造、鉄筋コンクリート造りの3階建てです。総床面積は3296平方メートルです。特徴としては、外観に窓を多く使用し、円柱の最上階にも自然光を取り込む窓を配置することで、日光を取り込み、明るい雰囲気をつくるのと同時に、外からも屋内のにぎやかさをご覧いただけます。また、木材の利用や木目調デザインを意識し、全体的に曲線的でやわらかい外観を予定しています。

国の補助金活用

(仮称)大更駅前顔づくり施設の整備には、国のデジタル田園都市国家構想交付金、地方創生拠点整備タイプ（観光や農林水産業の振興などの地方創生に資する拠点施設の整備を支援する交付金）を活用しています。交付金の額は令和6年度、7年度の2力年で合計5億円を予定しています。なお、内閣府が公表している11の採択事例にも選ばれ、非常に注目されている施設です。